

TOREK 自然農法 ホットニュース

第 192 号 2014. 4. 25

健康な地球に生きる健全な人間の姿を求める「岡田茂吉師」が提唱した「自然農法の原理」に基づき、「無施肥無農薬栽培」を通し、生産、流通、消費者が互いの現場を理解し合える、安全で豊かな「食」の普及に取り組んでいます。

長柄山自然農園たより

千葉県 山本由希彦

先日、熊本県南部の養鶏場で鶏 5 万 6000 羽の中の約 1100 羽が死んだ。簡易検査で鳥インフルエンザウイルスの陽性反応が出たため、詳しい遺伝子検査を行ったところ、10 羽の中 2 羽から「H5」型の鳥インフルエンザウイルスが検出され、11 万 2000 羽の鶏が殺処分された。10 羽の中 2 羽というのは、抜き取り調査を行ったのだろうが、「H5」型以外の理由で死んだ鶏のほうが多いのが、問題にならないのが不思議だ。耐性菌ができたのではないかな？

今回は肉用の鶏が死亡したらしいのだが、一般では、肉用鶏ブロイラーは 1 坪あたり 60 羽くらいで飼育されている。しかも約 2 カ月で大きくなり、出荷されていく。驚異的だ。飼料添加薬、ワクチン、抗生物質、恐るべしである。ちなみに当養鶏場では、1 坪あたり 10 羽くらいで、成鶏になるのに 6~7 カ月かかってしまう。平成 25 年畜産統計によると、産卵鶏農家 1 戸あたりの成鶏メス飼育羽数は 5 万 200 羽であり、大規模化が進んでいる。その 90 パーセント以上がバタリーケージ飼いで、鶏 1 羽につき 22 センチ平方のスペースに満たない空間で一生涯を終える。しかし、この動物虐待ともとられるような生産方式の上に、巨大な食品産業が成り立ち、それぞれの生活を支えている、というのが現実だ。



さて、私事であるが、いつもニワトリ処理をお願いしていたニワトリの処理場が昨年倒産してしまい、遠方の処理場へ行くことになった。そこは銚子の少し手前にある場所で、以前行っていたところよりは小規模な処理場であった。当方の持ち込み羽数が 40 羽と小羽数であったためか、なんと包丁でニワトリの放血を行っていた。目の前に吊り下げられ、首を切られたウチのニワトリたちの並んだ姿に、またその前に立っていた包丁を持った男の人の姿に、私は恥ずかしながらビビってしまった。ニワトリは死の間際に叫び声をあげながら死んでいく。つくづく「命を大切にしないと、大切に頂かない」と思わされた。大量生産、大量消費、何かトラブルが起こると大量に廃棄される食品。アメリカ式とい

うのが入ってきてわずか 60 年くらいで日本人も変わってしまった。

当農園では、スープ用に丸鶏の販売を、「育てたニワトリは最後まで面倒をみる」という気持ちで続けてきたが、やってみると意外と簡単に美味しいと徐々にではあるが利用してくださる人が増えつつある。ニワトリの処理代を考えればスーパーで買ったほうがいいのか、という考え方もあるが、ワクチンや薬を一切使っていない肉は他にはほとんどないだろう。そこで、今年度から新しく入れたヒヨコの半分を日本で種鶏改良された卵肉兼用種を導入することにした。卵は若干小さめになるが、黄身の割合は多めになるらしい。餌は 2 割増しに食べるが、美味しい鶏肉がとれるだろう。

ヒヨコに関しては私のような人は初めてということなので、社長に理由を詳しく聞かれたが、諸々話をして、自分の子供も一切予防注射もせず育てたこととお話すると、驚かれ、孵化場で強制接種されるマレックワクチンなしで特別に出荷していただくことになった。その孵化場は、昭和 28 年から種鶏改良一筋にやって来たところで、巨大な畜産産業には向かない卵肉兼用種のようなニワトリを作り続けている稀なところである。

卵は、初夏のころには産み出す予定だ。肉は、2 年後くらいである。そして思い切ってミンチの機械を買った。ウチのニワトリたちには大いにその使命を発揮してもらおうと思う。

(参考:「動物の解放 鶏と卵」「動物の解放 強制収容所ブロイラー」を検索してみてください)



11万羽処分、移動制限



雛鶏

骨折プラス高熱に自然農法のみかん

千葉県 長谷川雄紀



私は今年の 1 月に肩の骨を骨折しました。そして怪我をしてから 1 週間後に、高熱を出しました。骨折などをすると熱が出るということは聞いていましたが、本当に熱が出るとは思いませんでした。接骨院の先生からは、熱を出すと治りが悪くなるから気をつけるように、と言われていました。

そして高熱により全く食欲がわかず、食事を取ることができませんでした。そんなときに市川生産グループの自然農法のみかんを買わせていただくと、そのみかんだけは何個も食べることができました。それによって体力が付き、39 度の熱も一日で治すことができました。本当に自然農法の食べ物からもらえるパワーに感謝しました。

斉藤氏と菜園金野を訪問!

普及員 野中康次

3 月 31 日、斉藤一之氏(畑作交流会オヤジの会会長)と、菜園金野(副会長)を訪問しました。

午後 1 時、千葉県八街市にある斉藤氏の圃場に到着。斉藤氏はジャガイモ 4 種類(トウヤ、北あかり、男爵、メイクイーン)を植えている最中でした。そろそろサツマイモ苗作りを考えています。すぐに金野氏へ連絡して、2 人で斉藤氏の車で菜園金野へ向かいました。

車中で、斉藤氏のラッカセイの TOREK での販売が好評で、とても感謝されていました。まだ煎っていないラッカセイがあるそうです。また、岡田茂吉師の自然農法の普及や発展の意味で、ザックバランに話をしたいと、勉強会や、交流会は続けながらのプラスアルファの動きをしたいとのことでした。また、きじま平へ行き、堀さんも交え…つまり畑作交流会をきじま平でしたいとの希望が出ました。



左から斉藤氏、堀氏、金野氏 (平成 24 年 11 月斉藤氏の畑で)



菜園金野の葉物

金野氏の佐倉の畑に到着。1 時間強かかりました。金野氏ご夫婦で草取り作業中でした。ジャガイモ、生姜植え等、近日予定しています。この時期でも、栽培が滞らないために、大根や葉物栽培をしていました。トンネルを使い、難しいお世話に、苦心努力されていました。12 月に蒔いた大根は塔が立ち、こういう姿を見ると、辞めたくなくなると話してくれました。イチゴ摘みをしたいという孫の希望を叶えるために、イチゴ畑を広げていました。

昨年コラボできた、斉藤氏が苗作り、金野氏が育てた紅はるか(サツマイモ)が好評でしたので、今年もそういうことを考えたい、また、金野氏も齊藤氏も、我々の後に自然農法を繋ぐことも考えたい。例えば、何かに向けて…

東京オリンピックの食材を、自然農法の作物でまかなう五十嵐氏の夢の話。町田氏の、幼稚園の給食を自然農法の食材にしたい話。売れるからと、自然農法の偽物が出てきているので、我々本物の作り手が大切なこと等…を聞くと、やる気が出るので、やる気を持ち、取り組む。今まで畑作交流会をして、話が進んでいないことを感じるので、進める話ができるとうれしい…等話が出て、また機会を作りましょうという方向で終了いたしました。

お知らせ 自然農法勉強会 5 月 30 日(金) 午前の部 10:30~ / 午後の部 19:00~ (別院講堂)
自然農法頒布会 5 月 26 日(月) 鎌ヶ谷会場 11:00~ (売り切れ次第終了)

無施肥無農薬栽培物の販売予定 5 月 3 日 於: 伊都能売会館

生産者の方々が直接販売されます。 東京都八王子市長房町 57 042-665-6369

- 市川生産グループ: ほうじ茶、みかんジュース ● 中島農園: フキ、山ウド、コゴミ、梅干
- きじま平自然農産: そば粉、きな粉、甘納豆、大粒納豆
- 長柄山自然農園: 卵、丸鶏 ● 菜園金野: 長ネギ、山東菜、カブ、小松菜、スナップエンドウ
- ジョリフィユ: みかんジュースのゼリー、イチゴのロールケーキ、カスタードプリンほか

お問い合わせ先: 編集部 針貝 FAX: 03-3369-3324 e-mail: naturefarming@torek.jp
TOREK 活動のホームページもご覧ください。 <http://www.torek.jp>